９　研究指導教員紹介

教員氏名	神田　直弥　（ KANDA Naoya ）
職位	教授
専門分野	交通心理学、人間工学
指導テーマ	持続可能な交通を考える
専門分野の説明	私は心理学の観点から持続可能な交通の実現に取り組んでいます。道路交通は一時停止や確認、発進・横断のタイミング等、自己の判断に基づいて行う行動が多く、利用者にとって自由度の高いシステムです。日常的に多くの人が利用している反面、多くの事故も発生しています。 交通事故の対策は Education（教育）、Enforcement（規制）、Engineering（工学的対策）のいわゆる 3E の観点から行われていますが、特に関心を持っているのは教育です。現在は子どもに対する交通安全教育や、ドライバーに対するモビリティマネジメントを研究テーマにしています。地方都市では日常の移動を車に依存する傾向がありますが、誰もが自由に移動できるようにするためには、車以外の移動手段の充実と利用が求められます。健康面や環境面から車の使い方を考え、徒歩や自転車、公共交通も利用してくためにはどうしたらよいかを検討しています。

教員氏名	武田　真理子　（TAKEDA Mariko）
職位	教授
専門分野	社会政策、公益学
指導テーマ	社会政策、ニュージーランド研究、福祉まちづくり
専門分野の説明	現在、日本社会は大きな分岐点に立っています。急速な少子高齢化、人口減少の進行、グローバル化に伴う価値や規範の多様化、働き方や家族の変容を背景とした地域社会の変化などにより、近代化以降、少しずつ築き上げてきた社会制度の前提が崩れ、従来の社会システムが機能不全に陥り始めています。その結果、新たな生活困窮者や社会課題が生まれており、この現実を受け止め、新しい社会・時代を創造して行けるかどうかが問われています。 以上の問題意識から、私は、1938 年の世界初の全国民を対象とした社会保障法の制定以来、あらゆる人々の生活上のリスクに対して税方式で給付やサービスによる保障を行うセーフティネットのしくみを構築しているニュージーランドの社会政策の研究を続けています。 大学院では、社会保障・社会福祉制度、福祉まちづくり、スクールソーシャルワーク、地域人材育成など幅広い研究テーマの指導を担当させて頂いており、各課題の相互の関係性についても興味深い発見と学びを得ています。

教員氏名	三木　潤一　（MIKI Jun'ichi）
職位	教授
専門分野	公共経済学・財政学・地方財政論
指導テーマ	地方公共サービスにおける公共部門と民間部門の役割分担や広域化・大規模化など
専門分野の説明	私の専門分野は、政府の経済活動を対象とする公共経済学・財政学・地方財政論です。私はこれまで、地方公共サービスにおける公共部門と民間部門の役割分担や広域化・大規模化などについて、経済学の視点からごみ処理を中心に研究を行ってきました。民間委託の推進をはじめ、いかに生産性を高めるか、といった生産面から考察するとともに、費用負担面から、サービスの費用は税と料金のどちらで賄うべきか、といった問題に取り組んでいます。これらは、行財政改革のあり方や、税が賦課徴収される根拠について考えることにつながります。人口減少をはじめとした深刻な諸問題に直面する日本の地域が、今後どうあるべきかを模索・検討するうえで、ごみ処理に限らない重要なアプローチであると考えています。 私の研究は経済学をディシプリン（discipline：ある学問における固有の研究方法の意）としていますが、今日、私たちが直面している諸問題は、学際的（interdisciplinary）研究として、複数の学問分野からアプローチする意義が大きくなっています。例えば、私は上述の研究の一環として、地方公共サービスにおける人員・車両・施設等の最適配置問題を研究していますが、経済学の研究者だけで解を求めることは難しく、コンピュータ サイエンスの研究者とも連携してこの問題に取り組んでいます。公益学研究科は公益学部と同様、研究や教育の内容において、特定の学問分野に偏っていないことが特色のひとつであり、学際的研究に適した環境を有しているといえます。 大学院における研究においては、教員の多岐にわたる専門分野から自らのディシプリンを選択し、まずはひとつのディシプリンの修得に励んだうえで、学際的研究にも挑戦していただきたいです。

教員氏名	温井　亨　（NUKUI Toru）
職位	教授
専門分野	風景計画、建築、まちづくり、むらづくり
指導テーマ	全ての風景に歴史があり、その保全の上に計画を立案しよう、そのための研究
専門分野の説明	建築や造園、都市計画の分野に属しますから、空間の調査分析が基本です。研究の前提として実測し図化するスキルを持っていることが必要となります。専門分野のうち、元になるのはまちづくり＝都市計画ですが、これは 19 世紀の終わりから 20 世紀の初めにかけて急速に都市が拡大し、様々な問題が起ったことに対処する技術として発展しました。今、ようやく都市は縮小し始めましたが、近代都市計画史を把握することは必須です。指導テーマは近代都市計画の反省に由来するからです。もちろん現行都市計画の概要、線引きや用途地域、建蔽率や容積率、斜線制限などの都市計画制度を理解しておくことも必要です。近年の話題、コンパクトシティや創造都市なども、そうした基礎知識の元に初めて理解できると言えるでしょう。建築は都市の要素として取り上げます。一方この分野で農村研究が盛んになったのは近年ですが、住民の側からの取り組みをむらづくり、行政が法の裏付けのもとで行うものを風景計画とここでは言っています。風景という面的保全は、文化財や自然環境の方面からも取り組まれますが、そこでも、平面図や断面図、立面図などを通して、形態や空間、その中での暮らし、土地利用、あるいは動植物の生態などを分析していきます。

教員氏名	澤邉　みさ子　（SAWABE Misako）
職位	教授
専門分野	障害者福祉、障害学
指導テーマ	「障害」の視点から物事を捉え直す
専門分野の説明	私の専門は、障害者に関わる政策・制度の研究です。特に、障害者の「働く」ことに焦点をあてています。現在のわが国の社会福祉は、その目的を「自立と社会参加」の促進に置いています。「働く」ことは自立・社会参加の一つの方法ですが、障害者はその医学的な特性（いわゆる「障害」）だけでなく、社会的な障壁によっても、就労実現が妨げられています。また、「働く」ことは経済的自立の手段でもありますが、社会参加という視点から見ると、「働き方」の多様性も見えてきます。これからどのような方向性をもって障害者の「働く」ことの社会参加を実現していけばよいのかを考えながら、現状分析や事例分析を中心に研究を進めています。 このように私の専門は障害者に関することですが、ニートや引きこもりなど、就労支援を必要としている人たちにも、障害者雇用・就労分野での研究成果や実際の取り組みの経験が生かされています。障害者の働くことを考えていくと、私たちの働き方を見直すことにもなる可能性があると考えています。

教員氏名	阿部　公一　（ABE Koichi）
職位	教授
専門分野	年金教育
指導テーマ	社会人のための実務に役立つ年金リテラシーの育成及びツール開発の実践
専門分野の説明	社会に貢献する年金の専門家を育成するために、①国民年金行政及び年金広報政策に携わる地方公務員や国家公務員、②日本年金機構職員・金融機関職員・社会保険労務士等の専門職、③小中高等の社会科及び家庭科科目担当の教員を対象に、仕事に役立つ年金リテラシーのスキルアップを目指して実践研究の指導を進めます。例えば、①に関しては、「国民年金行政に付随する年金教育的課題」「広報誌を通じた年金教育戦略」「年金広報政策を通じた年金教育の在り方」「国民年金業務に対する行政評価」等の研究指導を得意としています。②に関しては、「年金口座の獲得促進のための年金教育ツール開発」「効果的な年金セミナーの教育方法」「日本年金機構の地域に対する役割」等の指導が可能です。③に関しては、教育学の専攻ではありませんが、これまでに高校公民科科目の学習指導要領や教科書分析の研究もしてきました。また、年金教育のみに止まらず、社会保障教育や税財政に関する公共教育まで広げて指導することができます。参考までに公益学部では、「公的年金論」「社会保障論」「政策入門」の講義科目を担当しています。

教員氏名	呉　衛峰　（WU Weifeng）
職位	教授
専門分野	比較文学、比較文化
指導テーマ	他文化間の文学の相互影響の考察、および近現代の文学理論と文化理論の研究
専門分野の説明	① 平安時代以降の和歌と漢詩の比較研究。影響研究のみならず、和歌と漢詩を日本古典文学の両輪として、その相互関係を検証する。 ② 日本古典文学の翻訳研究（中国語訳・英語訳を中心とする）。古今集を代表とする和歌の外国語訳、源氏物語を代表とする物語の翻訳研究、江戸俳諧を中心とする俳句の翻訳研究。 ③ 中国語圏・英語圏における俳句の受容と影響。 ④ 近代以降の文学批評理論（翻訳論やエコクリティシズムを含む）および文化批評理論（ポストコロニアリズムやナショナリズム論を含む）。

教員氏名	呉　尚浩　（GO Naohiro）
職位	教授
専門分野	公益学　環境社会学　地域づくり論　森林政策学
指導テーマ	多様な主体の共創による自然の循環的利用・保全と内発的地域づくり
専門分野の説明	自然と共生する地域づくりに焦点をあて、「地域住民による自然の循環的利用と保全」や「地域住民の主体的な発想や行動を核とし、地域資源を持続可能な形で活かす地域づくり」である「内発的地域づくり」、それを支える多様な主体による共創とそのネットワーク構築、および合意形成システムについて研究。具体的には、離島の地域づくり、海洋ごみ問題、海岸林保全、防災減災の地域づくりなどの分野で、庄内地域での実践的研究と全国の先進事例の研究を行っている。 ＜著書＞ 呉尚浩（2000）「都市近郊における里山保全の新たな展開と課題－市民による共同管理をめぐって－」環境経済・政策学会編『アメニティと歴史・自然遺産』東洋経済新報社 呉尚浩（2002）「市民社会と公益」小松隆二編『市民社会と公益学』不磨書房 呉尚浩（2010）「森と人の新たなつながり－多様な主体の共創による庄内海岸の森づくり」秋道智彌『鳥海山の水と暮らし－地域からのレポート』東北出版企画 呉尚浩（2011）「海岸ごみの問題」中島勇喜・岡田譲編『海岸林との共生』山形大学出版会 呉尚浩（2019）「花がおこし結ぶ島づくり【飛島・粟島・佐渡島の三島交流と「とびしま未来協議会」の挑戦】」）長嶋俊介編『日本ネシア論』藤原書店

教員氏名	松田　憲　（MATSUTA Ken）
職位	教授
専門分野	応用言語学
指導テーマ	言語習得について考える
専門分野の説明	私の専門分野である応用言語学とは、言語とそれに関連する言語行動を学際的な視点から多角的に探究する学問の総称のことをさします。 私たちは英語を外国語（EFL: English as a Foreign Language）として学んできたわけですが、英語を母語としない人が、第二言語（ESL: English as a Second Language）として英語を学んでいる国もあります。研究分野としては、Nonverbal Communicative Behavior（非言語コミュニケーション行動）が文化によって異なる点を調べ、言語習得における相手文化の非言語コミュニケーション行動理解の重要性などについて研究しています。実際の指導では、関連する海外の英語文献を課題として読んで要旨等を提出してもらい、内容についての理解を深めていきます。

教員氏名	古山　隆　（ FURUYAMA Takashi ）
職位	教授
専門分野	資源処理工学、リサイクル工学
指導テーマ	資源循環型社会の構築のための選別技術
専門分野の説明	資源循環型社会を構築するためには廃棄物の発生量を抑制すると共に効率よく原材料を循環利用する必要がある。通常、循環利用する際の工程は、①廃棄物の収集・運搬，②分離（解体・破砕）、③分級・④選別、⑤精製の順で行われるが、持続可能性が求められる場合は④選別がどれだけ効率よく行われるかにかかっていると言える。選別については２つの歴史的な技術系統があり、１つは農業における農産物の選別技術である。例としては各種の穀類を風力を利用して選別する「唐箕」などがある。もう１つは鉱業における鉱物の選別技術であり、例としては砂礫の中に含まれる砂金や砂スズなどの鉱物を椀と呼ばれる皿状の道具を用いて水流で洗い出して回収する「わんかけ」などがある。これらの選別技術の多くは現代社会の廃棄物のリサイクルに適用されているが、廃棄物の構成物が複雑多様であるために選別が効率よく行われていないのが現状である。このためリサイクル工学の選別に関する研究では、最適な選別条件を見出すことが主流となっている。

教員氏名	広瀬　雄二　（ HIROSE Yuji ）
職位	教授
専門分野	情報処理
指導テーマ	人のつながりを紡ぐ情報システム
専門分野の説明	人々が集まって活動をする目的は情報の共有であるとも言えます。スポーツの観戦、映画の鑑賞、その他様々な集いも、その場の雰囲気、感動、単純な事実その他様々な要素を他者と共有することで価値を感じられます。我々人間は、様々な活動を自分がするだけでなく、その成果や感情の変動を共有することも重視しています。 当研究室では人間と人間の営みをつなぐ情報処理の仕組み、すなわち情報システムを独自の発送で構築していきます。オープンソース・オープンデータの理念を踏まえ、誰もが自由に使え、自由に参加でき、自分の情報を自分のものとして誰にも侵されることなく管理できることを確保しつつ、地域の人の営みの助けとなるシステムを設計します。 目指すは情報技術の地産地消です。地域あるいは領域にとって大切な、固有の問題を知る人が集まり、知恵を結集し、最適な形で情報の流れを作るシステム自体を共有することで情報技術に関わる産業自体の活性化にもつながることを目指します。

教員氏名	森元　拓　（MORIMOTO Taku）
職位	教授
専門分野	法思想史・法哲学
指導テーマ	国家と個人との関係に関する思想史的考察
専門分野の説明	「国家と個人との関係はどのようにあるべきか」あるいは、「国家と対峙可能な市民社会を構築するためにはどうすればよいか」などといったことが、問題関心の根底にある。 このような問題関心をふまえ、もともとは、19 世紀後半から 20 世紀前半のドイツの国家学（憲法学と政治学をあわせたもの）の研究をしていた。より具体的には、Georg Jellinek や Max Weber の人権思想、これに関連したドイツ第二帝政における市民社会論やワイマール憲法と Weber との関連等について研究してきた。 近年は、それまでの研究をふまえ、主にドイツの法理論を受容した近代日本の憲法学者の法思想と、日本における市民社会のありようについて関心がある。具体的には、上杉慎吉や美濃部達吉の法思想について研究をすすめている。

教員氏名	山本　裕樹　（YAMAMOTO Yuki）
職位	教授
専門分野	物理学
指導テーマ	素粒子から宇宙まで
専門分野の説明	私の専門分野は物理学、その中でも素粒子理論になります。物理学においては、理論と実験や観測によって自然現象が従う基本法則を明らかにしようというのが一つの大きな目標となっています。この世界で起こっている自然現象は、どこであっても同じ基本法則に従っているという前提に立てば、地球上の現象だけでなく、遠くて行くことのできない宇宙のあちこちで起こっている現象について、観測と基本法則を手がかりに推測できます。我々の世界の物質は原子という粒子からできていますが、原子はさらに小さい粒子に分けることができます。これ以上細かく分けられない粒子を素粒子と言います。この素粒子でできている究極的なミクロの世界で起こっていることを明らかにする理論が素粒子理論です。宇宙は 138 億年前に起こったビッグバンという高温高密度の状態から始まったと考えられています。素粒子はそのときに誕生したと考えられており、素粒子を知ることが宇宙を知ることにつながっていきます。

教員氏名	門松　秀樹　（KADOMATSU Hideki）
職位	教授
専門分野	政治史・政治学
指導テーマ	政治と行政の関係と、どのような関係であるべきか
専門分野の説明	私は、法学部政治学科の出身で、主に政治学の立場から政治史を研究しています。このため、研究における基本的な視点がやや政治学寄りといえるかもしれません。私が関心を持っているのは、政治と行政はどのような関係であり、また、どのような関係であるべきなのか、ということです。歴史というと、単に過去に起きた出来事を調べているだけだという印象を持っている方も多いと思いますが、過去の出来事を事例として分析を積み重ねていくことで、いわゆる戦略的な思考というものは形成されていきます。このため、政治と行政の関係を歴史的視点から分析していくことで、いずれは望ましい政治と行政の関係とはどのようなものかを探ることができるのではないかと考えています。 取り組んでみたいことは、庄内地方における明治初期の地方政府の実態分析です。庄内地方では、庄内藩が改称した大泉藩以外にも諸藩の没収地を中心に、明治初期に政府の直轄地として設置された酒田県（第一次）がありました。統治の実務を担った官僚たちの実態など、まだ明らかになっていないことも多く残されています。この研究などを通じて、明治維新という政治体制の変動に際して、行政組織がどのような対応を迫られたのかを探っていきたいと考えています。

教員氏名	玉井　雅隆　（TAMAI Masataka）
職位	教授
専門分野	国際関係論・多文化共生論
指導テーマ	欧州における包括的安全保障概念
専門分野の説明	冷戦終結後に凄惨な民族紛争であるボスニア内戦を経験した欧州では、1999 年のコソボ紛争以来民族に起因する紛争が発生していない。その理由としては様々な要因が想定されうるが、欧州安全保障協力機構（OSCE）少数民族高等弁務官の活動によるところも大きい。 また冷戦終結以降欧州では民主主義、人権の尊重及び法の支配が全欧州の政治規範として重要視されるようになり、欧州審議会、EU や OSCE ではそれらの価値観に関する法規範・政治規範化がなされてきている。 玉井の研究関心としては、以上のように紛争予防手段としての国内統治規範である民主主義、人権の尊重並びに法の支配概念が国際的な法規範・政治規範となり、地域の平和と安定に寄与するという包括的安全保障概念がある。この概念や少数民族高等弁務官の活動により、旧ソ連を除く欧州地域では紛争が発生していないのではないか、と分析し、研究を行っている。 なお、参考文献は以下の通りである（いずれも自著） 拙著（2014）『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』国際書院。 拙著（2021）『欧州安全保障協力機構（OSCE）の多角的分析』志学社。

教員氏名	小野　英一　（ONO Eichi）
職位	教授
専門分野	人事行政
指導テーマ	自治体の人事行政・人事システム改革
専門分野の説明	人事行政は「行政の核心」・「一切の行政の土台」（辻[1991]）として行政にとって重要な位置付けにある。1990 年代以降、地方分権改革や公務員制度改革など自治体は様々な変革に直面してきたところであるが、人事行政においても様々な変革がもたらされてきている状況にある。当専門分野の研究動向を俯瞰すれば、従来の人事行政に関する先行研究については法令解説・判例解説の域を出ていない法制度の解説、また印象論・規範論を前面に出したものが多く、実態を明らかにしたもの、実証研究が不足していたが、近年、実証的な研究が数多く現れるようになってきている。先行研究を踏まえながら、実証的に明らかにするー当分野の研究においては、この厳しい姿勢が必要である。院生諸君にもそうした姿勢を厳しく求める。 ※当専門分野における研究がどういうものであるかをつかみたい方は下記文献をレビューされたい。辻清明(1991)『公務員制の研究』東京大学出版会、喜多見富太郎(2010)『地方自治護送船団―自治体経営規律の構造と改革』慈学社出版、大谷基道・河合晃一編(2019)『現代日本の公務員人事－政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』第一法規、林嶺那(2020)『学歴・試験・平等　自治体人事行政 3 つのモデル』東京大学出版会

教員氏名	松山　薫　（MATSUYAMA Kaoru）
職位	准教授
専門分野	地理学
指導テーマ	近現代の歴史地理学（軍事施設と地域，満州開拓送出の全国的拡大過程，世界規模のロケ地観光など）
専門分野の説明	昭和の戦時体制期に由来する土地利用や，建物を研究しています。現代において、すでに確認が難しくなっているそうした戦争遺産を、学問的な目から発掘し、記録することは、急務となっています。加えて、そうした事物を通じて、当時の人々のものの考え方が、何にどのように影響されていたかを、リアルな形で示していく意義も、このテーマにはあると思います。具体的には、旧陸海軍の施設やその土地（旧軍用地）の設置・形成過程、その戦後の転用についての研究を、大学院時代から行ってきました。その結果、旧軍用地の転用は、戦後の都市構造や産業誘致政策などに大きな影響を与えてきたことがわかってきました。もう一点は、戦前の「満州開拓」が生み出した「日輪兵舎」という建物に関する研究で、こちらも 20 年ほど研究し、ようやくその全貌に近いものがみえてきたように思います。「空間」をキーコンセプトとする地理学の分野で、地図や写真といった視覚資料を用いてこうしたテーマに取り組みながら、発見の興奮と、見出したものの重さを実感しています。

教員氏名	西村　まどか （NISHIMURA Madoka）
職位	准教授
専門分野	素粒子物理学
指導テーマ	数理物理学的な観点からの機械学習を用いたデータの取り扱い
専門分野の説明	素粒子物理学は、物理学の博士号を取得したのちに各国でポスドクなどの経験を経て様々な研究者と交流し研究を深めます。力学、熱力学、電磁気学など確立されている分野に、統計力学、量子力学などを若い学年で学び、その後場の理論や相対性理論、相対論的場の理論や一般相対性理論へと進む頃が学部生の終了時点かと思います。場の理論から物性理論の各モデルなども教員の研究分野に沿って紹介されたり、核物理学の手法など、細かい理論の導出の議論や手法を学ぶのが修士です。素粒子の現象論では高エネルギーの素粒子ループ計算、一般相対論ではブラックホールのエントロピー、ブラックホールの蒸発など理論的な模型などを扱うかもしれません。素粒子物理学や場の理論で用いている考え方が機械学習の手法で再定義されたりしています。

教員氏名	鎌田　剛 （KAMADA Go）
職位	准教授
専門分野	知識経営、医療・福祉・介護分野の連携
指導テーマ	ヘルスケア領域における連携事例のケーススタディ
専門分野の説明	病院や福祉・介護施設、在宅の介護事業所等における「連携」の秘訣を、実証的に導出する研究に取り組んでいます。研究方法としては、実際の事例にあたって、聞き取りや観察を通じデータを集める「ケーススタディ」を得意としています。 事例を詳しく記述するだけでなく、経営学領域における理論に照らし、因果関係や促進・阻害要因を追究します。こうして説明を起こし、学術的あるいは社会的に貢献する知見の提案をめざしています。 現実世界で起きていることを理論に照らすと、次のようなおもしろい発見があります。たとえば、多職種連携において“顔の見える関係”が必要とされる理由は、患者中心の医療を提供するため・・ではありません（現実的にはもっともなことですが）。信頼研究の理論にもとづけば、「互いに相手の出方がわからず、そこに不信があるから」が、その答えになります。そうであるなら、「出方を上手にみせること」が、連携の秘訣に思えてきませんか？ このように、研究にはまだ誰も知らないナゾを解き明かすような醍醐味があります。一緒に挑戦しませんか？

教員氏名	植田　和憲（UEDA Kazunori）
職位	准教授
専門分野	情報ネットワーク
指導テーマ	自律分散ネットワーク、センサー・モバイルネットワーク
専門分野の説明	情報ネットワークの中でも特に、各コンピュータが自律的に動作や処理を行うことによってアプリケーションを実現、あるいは大きなひとつのシステムを形成する自律分散ネットワークや、移動するコンピュータやセンサーを搭載したコンピュータ同士が無線などで相互に通信することで全体として柔軟なネットワークシステムとして動作するセンサー・モバイルネットワーク等を対象に研究を行っています。 自律分散ネットワークの研究としては、従来から用いられてきたモデルである高機能なコンピュータに多数のコンピュータが接続しサービスを受けるクライアント・サーバモデルとは異なり、それぞれのコンピュータが対等な関係でありサービスを提供する側にも受ける側にもなる P2P ネットワークモデルの研究があります。さらに、コンピュータだけでなくネットワークそのものを対象とし、複合ネットワークを構成する複数の主体的なネットワーク間でのリソース管理についての研究も行っています。 センサー・モバイルネットワークの研究としては、自律分散ネットワークの研究で得られた知見を活かし、移動するコンピュータ同士が通信することによってデータの転送経路を探索するだけでなく、無線ネットワークを構築する段階から経路制御を前提とした情報交換を行うことで即時にデータの転送を開始できる仕組みについての研究やセンサーを備えたコンピュータからのデータを効率的に収集するためのネットワークモデルや経路制御についての研究を行っています。

教員氏名	小関　久恵（ KOSEKI Hisae ）
職位	准教授
専門分野	ソーシャルワーク、社会福祉学
指導テーマ	社会的なつながりの構築、中山間地域の地域づくり
専門分野の説明	超高齢化、人口減少が進む日本においては、社会構造の大きな変化により、地域コミュニティに期待される機能や活動の担い手の確保をどのように維持していくかが課題となっています。なかでも、条件不利地域といわれる中山間地域における持続可能な形での新しい地域コミュニティのあり方を考えるキーワードとして、「社会的なつながり」に着目しています。 「定住」でもなく「交流」でもない「関係人口」という概念が 2016 年に登場し、地域コミュニティの機能維持が困難な地域との関係構築の中で、地域外の人々が主体（担い手）として活躍することにも期待が高まっています。また、多様な主体（地域住民、ＮＰＯ、企業、地域金融機関等）の参画による「共助による地域づくり」の推進も重要視されているところです。 最近関心を向けているのは、リアルとバーチャルを掛け合わせた「時代に合ったつながり」です。 コロナ禍においてますます重要性を実感した対面でのつながり【リアル】と、離れていてもつながっている【バーチャル】の双方のバランスをとりながら、人や地域を元気にする地域コミュニティにおける持続的な社会的つながりの構築について研究・実践を積み重ねていきたいと考えています。

教員氏名	樋口　恵佳（ HIGUCHI Eka ）
職位	准教授
専門分野	国際法・国際海洋法
指導テーマ	国際法と照らした国内政策等の評価 / 国際法上の諸問題の考察・解決法の提案
専門分野の説明	国際法・国際海洋法の観点から研究を行っています。 国際法は国と国との国際約束を基本とした国家間関係を規律する法であり、条約等による規律対象は広範な分野にわたります。 国際社会には国内法制度が前提とするような普遍的・統一的な法執行機関が存在しないため、国際法は法の成立過程や実施過程の中に、国内法にはない不安定性・不確実性を内包します。そのような環境の中で、法とは何か、「法的拘束力がある」とはどういうことか、法が守られるとはどういうことか、こういった根本的なところから世の中にある制度を読み解いていくことは困難ながら非常に楽しい作業です。 そのうえで、「あるべき理想の状態」と「現状」がどう違うのか、違うのはどうしてなのか、現実と理想との差をどうやって縮めるべきか、法的・制度的視点から考えてみましょう。 研究をすすめるうえで関連する資料は、国際条約の条文、条約の成立過程、条約の運用状況、組織内部の決議等、国際裁判所・国内裁判所の判例など、多岐にわたります。外国語の文書も積極的に読み解いてくれるといいなと思います。

教員氏名	ノヴァコフスキ　カロル　（ Karol NOWAKOWSKI ）
職位	講師
専門分野	自然言語処理、計算言語学
指導テーマ	少数言語や方言のための自然言語処理　（アイヌ語を中心に）
専門分野の説明	私の研究の専門分野は「自然言語処理」、つまり人間が日常的に使っている言葉をコンピュータに処理させる技術に関する研究です。その分野は、消滅の危機に瀕している少数言語の記録保存や分析、再活性化といった喫緊の課題解決において重要な役割を担うと期待されています。ここ数十年において言語関連技術は急速に発展・普及していますが、少数言語話者に対してもそれらの技術を活用する機会が与えられなければ、多数言語と少数言語との間に技術的ギャップが生じ、後者の危機がさらに深刻化する恐れがあります。これらの言語には、日本の現地語のひとつであり危機言語となっているアイヌ語も含まれており、私はアイヌ語のための自然言語処理技術の開発に携わっています。たとえば、最近の研究ではアイヌ語教育の場面において AI やロボットの活用可能性を論証することを目的として、アイヌ語の自動会話プログラムをロボットに搭載して活用するための予備実験を実施しました。 ひとつひとつの言語が死語になってしまうと、その話者が代々にわたって伝わり続けた知恵が世の中から消えてしまい、人類全体の損失に繋がることになるでしょう。大学院に入学する学生の皆さんとともに、日本や世界の少数言語、または庄内弁のような「国の言葉」を、最先端の自然言語処理技術を有効活用してその保存と活性化に役立つ研究をぜひ進めていきたいと思っています。